

041 安息日に麦の穂を摘む

(マタイによる福音書 12:1~8、マルコによる福音書 2:23~28、ルカによる福音書 6:1~5)

01 そのころ、ある安息日(→金曜日の日没~土曜日の日没)にイエスは麦畑を通られた。弟子たちは空腹になったので、麦の穂を摘んで食べ始めた。

→麦の穂を摘むことは仕事であり、安息日の規定違反だと、ファリサイ派(→律法を守ること、特に安息日や断食、施しを行うことや清めの儀式を強調した)の人たちは考えた。

→イスラエルでは空腹の旅人が畑を通り過ぎるとき、慣習上、麦の穂を摘んで食べてもよいと考えていた(申命記 24:19~22)。

→ルカによる福音書 6:1

ある安息日に、イエスが麦畑を通して行かれると、弟子たちは①麦の穂を摘み、②手でもんで③食べた。



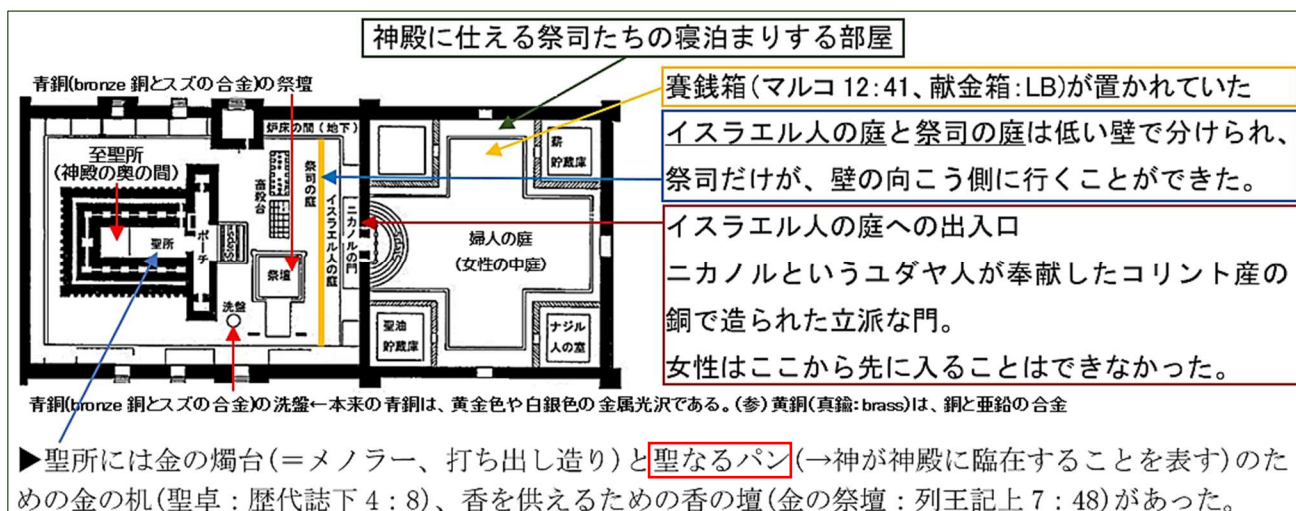
02 ファリサイ派の人々がこれを見て、イエスに、「御覧なさい。あなたの弟子たちは、安息日にはしてはならないことをしている」と言った。

03 そこで、イエスは言われた。「ダビデが自分も供の者たちも空腹だったときに何をしたか、読んだことがないのか。」

04 神の家に入り、ただ祭司のほかには、自分も供の者たちも食べてはならない供えのパンを食べたではないか。

→命>律法

→ダビデとその従者たちは空腹だったので、神殿からパンをもらって食べた(レビ記 24:5~9、サムエル記上 21:1~6)。



→このパン(→聖別されたパン)はアロンとその子らのものであり、彼らはそれを聖域で食べねばならない。それは神聖なものだからである。燃やして主にささげる物のうちで、これは彼のものである。これは不変の定めである(レビ記 24:9)。

→すなわち、第一の幕屋が設けられ、その中には燭台、机、そして供え物のパンが置かれていました。この幕屋が聖所と呼ばれるものです(ヘブライ人への手紙 9:2)。

05 安息日に神殿にいる祭司は、安息日の掟を破っても罪にならない、と律法にあるのを読んだことがな

いのか。

06 言うておくが、神殿よりも偉大なもの（→もの⇒者＝イエス・キリスト）がここにある。

07 もし、『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』という言葉の意味を知っていれば、あなたたちは罪もない人たちをとがめなかったであろう。

→わたしが喜ぶのは／愛であっていけにえではなく／神を知ることであって／焼き尽くす献げ物ではない（ホセア書 6：6）。

→そして更に言われた。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない（マルコによる福音書 2：27）。

08 人の子は安息日の主なのである。」

→安息日といえども、天から来たわたしの支配下にあるのだから（リビング・バイブル）。

【参考】タルムード Talmud

ヘブライ語で「教訓」「教義」の意で、BC2 世紀から 5 世紀までのユダヤ教ラビたちが、モーセの律法を中心に行なった口伝や解説を集成したもので、旧約聖書に続く聖典とされている。

ラビの口伝を収録する「ミシュナ」（「反復」を意味する）とその注解、解説を集めた「ゲマラ」（「補遺」を意味する）の 2 部より構成されている。「ミシュナ」はヘブライ語、「ゲマラ」はあるアラム語で書かれている。4 世紀末ごろ編集された「エルサレム・タルムード Jerusalem Talmud」（別名：パレスティナ・タルムード Palestinian Talmud）と 6 世紀ころまでに編集された「バビロニア・タルムード Babylonian Talmud」があり、一般には後者をさす。